

尾ノ上の風

第16号



学ぶ きたえる 助け合う

文責：校長 村上 正祐

2学期 終業式を迎えて

地域の皆様やご家庭のご協力のおかげで2学期の終業式を迎えることができました。

今年の2学期は、8月26日から始まり例年より1週間ほど長い学期になりました。9月は残暑厳しい時期でしたが、少しずつ季節は進み、校庭のイチョウもすっかり落葉しています。

2学期は教科の学習に加え、見学旅行や修学旅行、音楽会といった行事があり、子どもたちと職員は多用な毎日をすごしていたと思います。夏の疲れも出てきたため、音楽会後に体調を壊す子どもたちも多かったように思います。

明日から、1月6日まで冬休みを迎えます。13日の休みがありますが、新年を迎え、ご家族と外出するご家庭もあるかと思えます。年が明ければ、3学期を終えて4月からは1学年ずつ進級します。来年はどのようなことをがんばりたいのかをぜひ、お正月に決意をするよう子どもたちに話をしたところです。ご家庭で1年の抱負をぜひお子さんとお話していただきたいと思えます。

大盛況 わくわくチャレンジ集会

12月17日（火）の2・3校時に4・5・6年生が各クラスでアイデアを絞り、協力して様々なチャレンジコーナーの出店を行いました。出店には、ボールを投げや卓球、釣堀、タイム計り、ボーリング、TVでよく見るアジリティを乗り越えるタイプなど趣向を凝らしてバラエティに富んでおりました。下級生は思い思いにいろいろなクラスを回り、とても楽しい時間を過ごすことができました。上級生は準備と片付けが大変だったと思いますが、企画力、準備力、運営力が身に付いたと思えます。お疲れさまでした。



呼び込みをする5年生（左）と釣堀を楽しむ下級生（右）

こんにちは！お仕事&授業拝見27 2年2組算数 岩松先生編

○岩松先生の算数の授業を参観しました。授業を見て、

①教師の表情、張りのある声、学級全体への視線を配りながら全体を意識した指導 ②自信を持って発言できる授業づくり ③分かりやすい板書や提示と子どもたちの作品を大事にした教室設営 がとてもいいなと思えました。

岩松先生の表情は笑顔が基本で、張りのある声でメリハリをつけて指導しています。発表する子どもだけでなく、全体への視線を向けることで聞いている子どもたち全員に「聞く」という姿勢を意識されておられました。特に、笑顔の表情を保っておられることは子どもに安心感を与えています。一生懸命に先生とがんばろうと思っている子どもたちにとってすごく大事だと思います。

授業の始めの復習では、「365はどんな数ですか」と問いかけて「100を3こ、10を6つ、1を5つ、合わせた数」と答えさせて板書されました。その後、数字を変えながら似た問題を同じように4つ問題を出してテンポよく進めました。変化をつけながら繰り返すことで、はじめは、答え方がわからなかった子どもたちも段々と手が上がるようになってきました。全員に発表させようとする先生の基本姿勢がわかりました。

数え棒のイラストですっきりとまとめたり、百、十、一の位を書いた表でおさらいをしたりと、とてもテンポよい進め方でした。この授業のメインの課題でも、授業始めのおさらいが基本になっているので、スムーズに取り組んでいけたようです。子どもに発表させた後、もう一人指名して説明させたり、ハンドサインを使って子どもが安心して手をあげられるようなやり方を工夫されたりして、発言することに抵抗がなくなっていくだろうなと思えました。全員に発言する力をつけるという先生の覚悟を強く感じた1時間でした。



元気よく手をあげる子どもたち（上）とノート作業の様子（下）



岩松 公子（いわまつ きみこ）先生 尾ノ上小6年目

【岩松先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

まず、小さい子どもたちが好きだったということですね。それに、両親が先生だったという影響もありますが、中学校の英語の先生が流暢に英語を話しているのを聞いて、すごく憧れを持ちました。だから、私もそんな先生になりたいと強く思いました。